

平成24年1月19日(木)
平成23年度 第8回
大阪府河川整備委員会

資料
1-2

大津川水系榎尾川のこれまでの経過

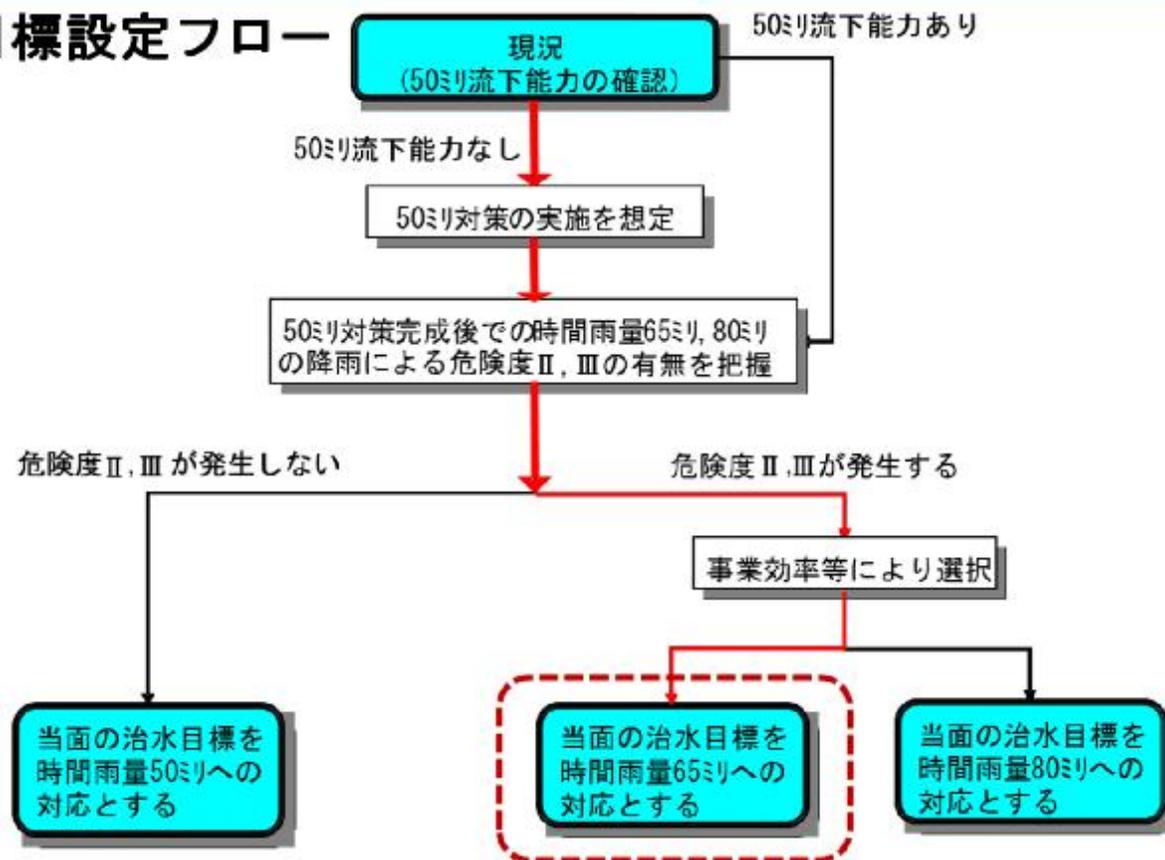
目 次

1. 平成22年度の河川整備委員会審議
2. 大阪府の判断
3. 地元の同意

1. 平成22年度の河川整備委員会審議

榎尾川の治水目標の設定

■ 当面の治水目標設定フロー



【榎尾川における当面の治水目標】

「今後の治水対策の進め方」に基づき、当面の治水目標を設定

⇒時間雨量65ミリの降雨で床上浸水の発生を解消

治水手法

【榎尾川における治水手法】

複数の手法（9案）から、最終的に以下の2案に絞り込み比較検討。⇒意見とりまとめに至らず

ケース①「河川改修＋ダム」案
ケース⑧「河川改修＋局所改修」案

委員意見『余裕高部分の堤防補強も含めて検討』

参考ケース「河川改修＋ダム」＋堤防補強 案
ケース⑨ 「河川改修＋局所改修」＋堤防補強 案

余裕高部分の堤防補強の効果について、「技術的な裏付けが無い」、「実質的に効果がある」など意見が分かれた

治水手法の選定について

当面目指すべき「治水目標」を設定し、目標が達成できる治水手法について選定する。

◆治水目標:時間雨量65ミリ対策で地先の危険度Ⅱを解消

ケース	治水手法		選定の考え方
	中下流部	上流部	
①	河川改修+ダム	河床掘削+ダム	河川改修とダムにより治水安全度を確保 [現計画]
②	河川改修	河川改修 [全区間]	河川改修により治水安全度を確保
③	河川改修+遊水地		河川改修と貯留施設の組合わせにより治水安全度を確保
④	河川改修+流出抑制		

◆治水目標:時間雨量65ミリ対策で地先の危険度Ⅱを解消 (ただし、ダム直下流1.6km区間は、下流集落部0.9kmのみ浸水を解消)

⑤	河川改修 【65ミリ対策】	河川改修[集落部のみ]	河川改修により治水安全度を確保 ※ただし、上流部(1.6km区間)では農地・道路の浸水が残る
⑥		河川改修[集落部のみ] (複合案)	

◆河川整備委員会委員の意見を参考に選定した対策案

⑦	河川改修	河川改修[集落部のみ] 【50ミリ対策】	河川改修により治水安全度を確保 ※ただし、上流部(1.6km区間)は50ミリ対策とし、危険度Ⅱの解消のため、別途対策を検討
⑧	河川改修 + 局所対策 【50ミリ対策】		全区間で50ミリ対策後、65ミリ降雨による1洪水シミュレーション結果に基づいた破堤箇所のみを個別に対策 ※ただし、上流部(1.6km区間)では農地・道路の浸水が残る
⑨	河川改修 + 局所対策 【50ミリ対策】 + 堤防補強		ケース⑧の対策後、下流区間でHWLから天端までの堤防補強を実施 ※ただし、上流部(1.6km区間)では農地・道路の浸水が残る
参考ケース	河川改修 + ダム 【65ミリ対策】 + 堤防補強		ケース①の対策後、下流区間でHWLから天端までの堤防補強を実施

大阪府河川整備委員会の審議結果(1)

■河川整備委員会における意見等

治水手法	「河川改修+局所改修」(+堤防補強)	「河川改修+ダム」(+堤防補強)
達成レベル	65ミリ降雨に対し床上浸水を解消（床下浸水は残る）	65ミリ降雨に対し床下・床上浸水を解消
治水効果	<ul style="list-style-type: none"> ○榎尾川において50ミリ対策後、65ミリの降雨で発生する床上浸水は、発生箇所も限られているため、河川全区域に効果があるダムではなく、局所改修で対応は可能 ○局所改修は、段階的な河川改修の一つのステップであり、将来目標に向けた次の段階も考慮した整備をすべき ○時間雨量65ミリを超える80、90ミリの雨に対しては効果がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○上流部(ダム直下1.6km)は、川際に人家が連担しているため、河川の拡幅等による改修ではなく、上流にダムを造り、その貯水効果により河川の水位を下げる治水手法が有効 ○時間雨量65ミリを超える80、90ミリの雨に対しても、ダムによる貯水効果により一定の効果がある ○榎尾川流域における降雨のうち、ダムで集水できる区域は全体の僅かであり、降雨分布によってはダムの効果はない
事業費 (今後の投資額)	80億円【※81億円】 ○ダム案に比べ優位	108億円【※109億円】 ○局所改修案に比べ劣る
事業効率 (経済的內部収益率)	-5.4%【※5.3%】 ○堤防補強が有効な場合、ダム案に比べ優位	2.7%【※4.3%】 ○堤防補強が有効でない場合、局所改修案に比べ優位
効果発現時期	平成28年度 65ミリ対策完成 (地元合意等が円滑に進む場合) ○効果発現時期の実現性について、十分な検討、議論がなされていない ○地元の合意に期間を要するリスクあり	平成27年度 50ミリ対策完成 平成28年度 65ミリ対策完成
環境への影響	○ダム案に比べ影響が小さい	○局所改修案に比べ影響が大きい

※は、下流部4km区間の余裕高部分を堤防補強し、破堤しないとした場合。堤防補強の有効性については、河川整備委員会において評価が分かれている。

○「事業効率」について

- ・時間雨量65ミリを超える超過洪水に対して、堤防補強をしない場合は、ダム案の方が事業の効率性は高くなる。
- ・一方で超過洪水により被害が発生する下流部4kmの区間において、HWLから堤防天端の間（余裕高部分）を補強し、仮に破堤しないとした場合、局所改修案の方が事業効率は高くなるという試算もある。

大阪府河川整備委員会の審議結果(2)

■河川整備委員会の結果

<委員会の意見とりまとめ（案）>

○委員長案（たたき台）

：「河川改修＋局所改修＋堤防補強」案が最も妥当な選択である

<審議結果>

- | | |
|----------------|----|
| ・委員長案に賛同 | 4名 |
| ・「河川改修＋ダム」案に賛同 | 2名 |
| ・保留 | 5名 |
| ・欠席 | 2名 |

⇒ 委員会としての意見とりまとめを断念

委員長案＋各委員からの意見書（10名分）を提出

2. 大阪府の判断

槇尾川の治水計画に関する知事の判断（H23.2.15）

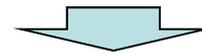
■判断の前提

【河川整備委員会における検討結果】

- 今後20～30年の治水目標としては、時間雨量65ミリへの対応とすることが妥当。
- 「河川改修案(河川改修+局所改修)」と「ダム案(河川改修+ダム)」は治水効果面では、ほぼ同程度。

【現地確認による上流部の状況把握】

- 極端な曲がりくねり、部分的に切り立った崖のような護岸、川に張り付くように建ち並ぶ家屋。



【知事の判断】：「ダムに頼らない河川改修」を選択。

- このまちの状況を放置したままではダメだ。ダムをつくって水を止めるというやり方だけでは、いつまでたっても住民の安全への不安は消えない。
- ダムに頼るのではなく、真に水害に強いまちとして次の世代に引き継いでもらいたい。
- まちの状況に応じて可能な限り河川の拡幅を行い、河川直近の家屋にはセットバックしてもらい河川から遠ざける。等

3. 地元の同意

『榎尾川上流部の治水対策に関する
地元住民と知事の意見交換会』

■意見交換会の概要

日 時：平成23年8月3日（水） 20時～22時

場 所：和泉市南部リージョンセンター
多目的ホール

参加者：橋下知事、村上都市整備部長 ほか
榎尾川上流部（父鬼川合流点から上流1.6
km区間）において、河川改修に係る地元
住民
関連する地元町会役員、和泉市 等 約120人

■意見交換会の写真



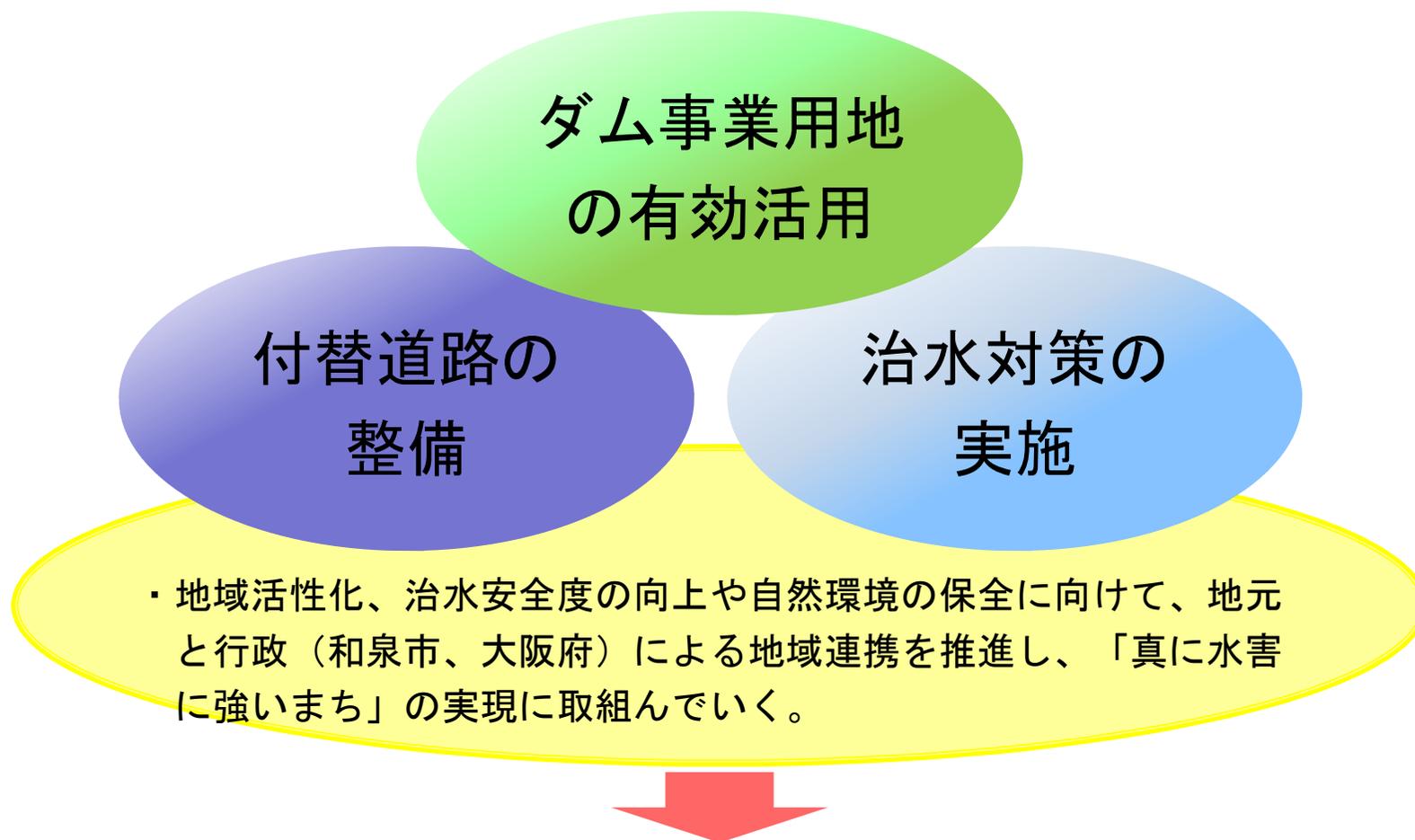
当日の資料(抜粋)

■ 「真に水害に強いまち」の実現に向けた基本方針

○河川沿いだけでなく、「まち全体」で災害に対応（防災環境軸の創出）。

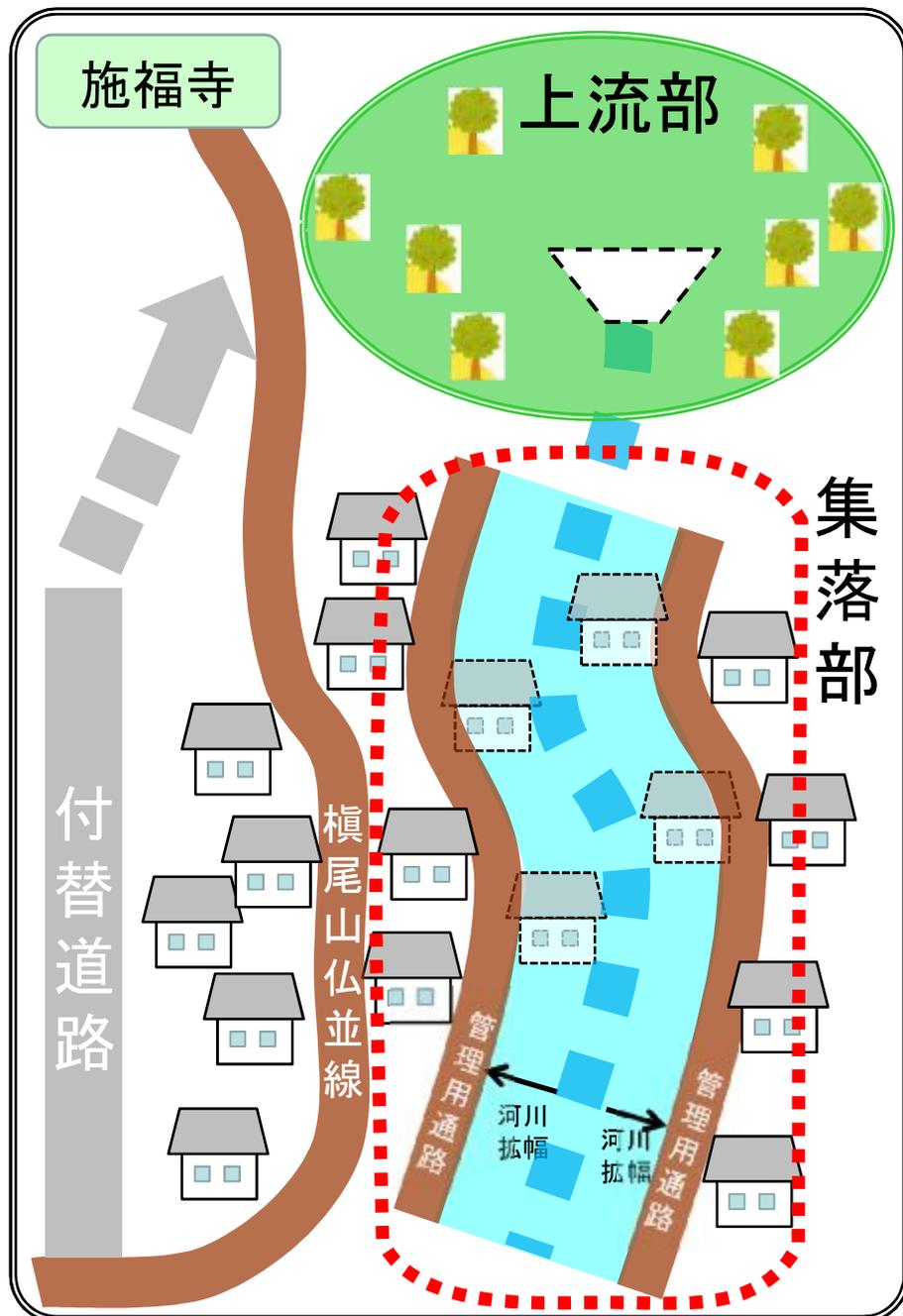
⇒【真に水害に強いまち】

○「真に水害に強いまち」の実現を通して、地域振興にも寄与。



「真に水害に強いまち」の実現

■「真に水害に強いまち」の実現に向けた取り組みイメージ



■付替道路

- 集落部を通過する車両を迂回させることが可能（早期完成を目指す）
- 緑の復活（桜並木など）

■治水対策の実施

【真に水害に強いまちに向けて（集落部）】

- 治水安全度の向上（65%）
- 河川空間（管理用通路）利用
 - ・家屋への被災防止、地域のコミュニケーション道路
 - ・地震時、火災時の避難路、延焼遮断帯
- 河川水利用
 - ・火災時の緊急消火用水

■ダム事業用地の有効活用

【山林の再生（上流部）】

- 植林から自然性二次林への転換（植樹、アドプトフォレスト制度の活用）
- 倒木による河川閉塞等の防止（流木対策、間伐）
- 左岸部民地へのアクセス確保
- 林業、地域振興策の検討

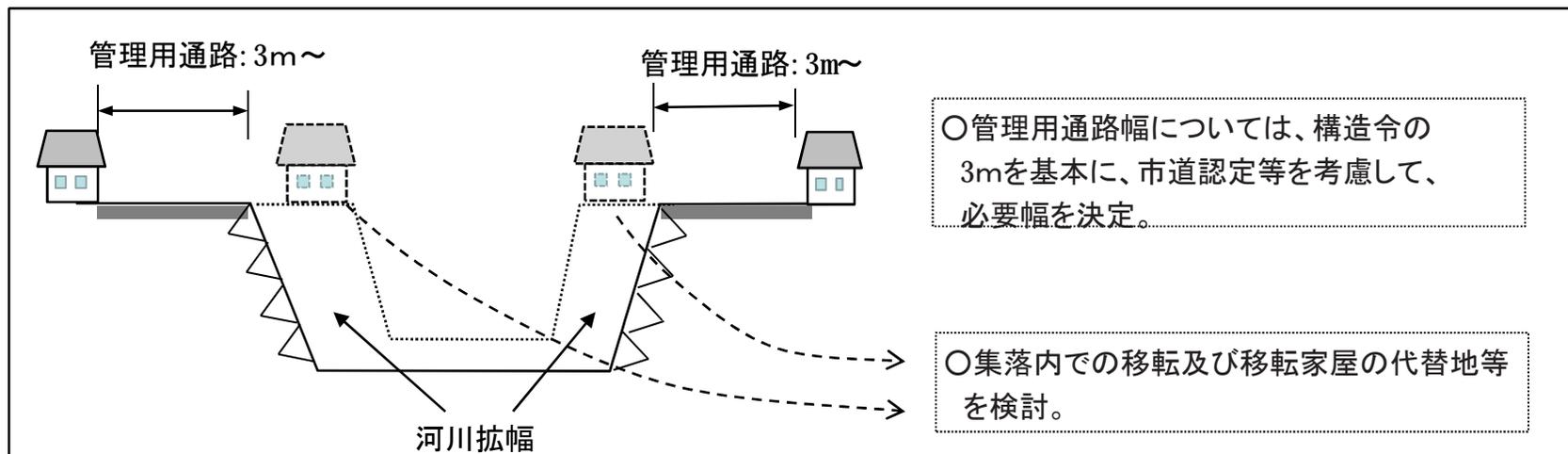
■その他（当面の防災対策）

- ダム工事法面の防災対策
- 洪水時の河川状況の情報提供（WEBカメラ設置済）
- 浸水リスク開示、避難支援方策の検討

■治水対策の実施【真に水害に強いまちに向けて(集落部)】

○河川拡幅による治水安全度の向上を目指すとともに、管理用通路の確保により、家屋への被害防止を目指す。

◆河川拡幅による河川改修イメージ



◆管理用通路が無い場合(家屋被害の発生事例)



◆管理用通路がある場合(家屋被害の防止事例)



■ダム事業用地の有効活用【山林の再生（上流部）】

- ダム建設事業により改変した、自然環境を自然性二次林へ転換して回復。
- 山林の保全・再生による洪水の流出抑制と流木対策の推進。



2004.9



2006.10



2007.9



2008.9

◆植生回復実験



2004.9



2008.9

◆森林表土のまきだし実験



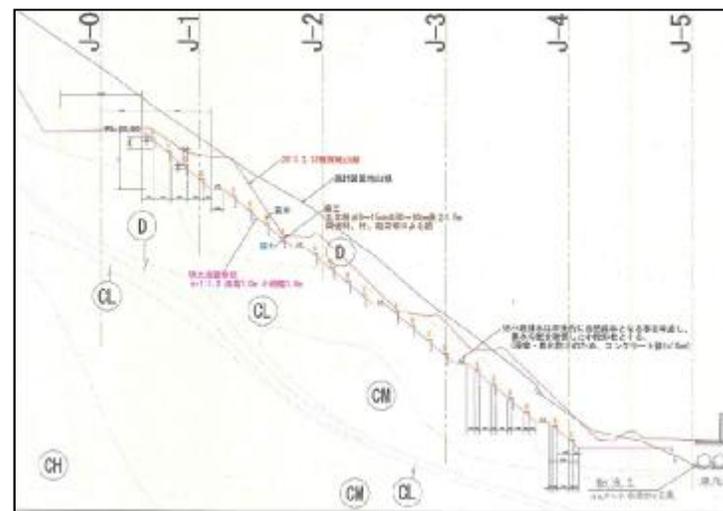
◆職員による自生サクラの育苗実験

横尾川ダム地域で見られるサクラのなかま				
	ヤマザクラ	カスミザクラ	ウワミズザクラ	イヌザクラ
特ちょう	花は葉と同時に 咲きます。花の時期 の葉は赤い色をして います	花は葉と同時に 咲きます。葉や実の 柄には毛があります	花はブラシ状 （しょう）	花はブラシ状。維 長い葉が特ちょう です
花				

■当面の防災対策

- ダム工事法面の防災対策の実施。
- 洪水時の河川状況の情報提供（WEBカメラ設置済）。

◆左岸法面復旧



◆洪水時の河川状況の情報提供

- WEBカメラによる河川状況の情報提供。⇒引き続き避難支援方策を検討。



- 榎尾川の治水対策にかかる府の方針転換について、申し訳なく思う。
- 治水対策について、ダム直下のまちを根本から変えることが重要だという考えは変わらない。
- 今後協議を進めるにあたり、次の3点の方針を示す。
 - ①付替道路は現計画どおり、青少年センターまで整備する。
 - ②河川改修による治水対策の早期実現。**
 - ③森づくりを進め、地域振興を進めたい。

住民意見(河川改修に関すること)

- 地権者の同意により河川改修に向けた測量作業を承認
- 今後は河川改修にも力を入れていただきたい。
- 但し、我々はダムを決してあきらめていない。
- 河川改修後、ダム事業を推進してほしい。
- 20年間のダムへの思いを転換したことに、地元は苦渋の思いがあることは認識してほしい。
- 榎尾川ダムは着工したダムを中止し、全国的に有名になった。次は知事の方で、ダムを止めてこんなに立派な地域になったと言われたい。

河川改修に対する一定の理解
(府の選択した治水手法の実現性を確認)

榎尾川ダム中止地元了承

橋下知事と意見交換 河川改修測量へ

大阪府の橋下徹知事は3日夜、榎尾川ダム(和泉市)の建設中止を表明した。2月以降、初めて地元で住民と意見交換した。不満の声も相次いだ。最終的には地元はダム中止を受け入れ、代替策として河川改修を行うことを了承した。府は今後、改修のための測量調査に入る。

終了後、橋下知事は報道陣に「最初の一步を踏み出すことができ、地元の皆さんに感謝している。課題は山積しているが、できるだけ早く進める」と話した。榎尾川ダムは総事業費128億円。府が計画した治水ダムで、本体着工後に橋下知事が建設中止を表明した。住民側の反発で、測量

調査に入れない状況が続いていた。意見交換会は、ダム近くの複合施設で午後8時から行われ、橋下知事は住民約120人に、「府が約束してきたことを私自身が方針を変えて、皆様に混乱を与えたことをおわびしたい」と陳謝。「真に水害に強いまちを作るために、河川を広げ、家を安全な

場所に移し、周囲に道路を造っていく」などと代替策のメリットを強調した。住民からは「河川改修で流木や土砂が止まるのか」「地元で苦難があった」とを肝に銘じてほしい」などの意見が出たが、最終的には、代替策を受け入れた。地元連合町会の中林幹夫会長は「ダム中止は残念だが、決まった以上は仕方ない。安全と活性化のため、できることから進めてほしい」と語った。

榎尾川ダムの建設中止 住民らに容認論

大阪府の橋下徹知事は3日夜、2月に建設中止を決めた榎尾川ダム(和泉市)の地元住民と意見交換をした。ダムに代わる河川改修計画案を提示した府側に、ダム建設を求めてきた住民らも協力的な姿勢を見せ、今秋にも測量が始まる。

「てほしい」など容認意見が目立った。ダム推進派は

河川改修、住民反発なく

橋下知事「了解得られた」

大阪府の橋下徹知事は3日夜、2月に府が建設中止を決めた榎尾川ダム(和泉市)周辺の地元住民との意見交換会に出席し、「早期に河川改修に着手し、真に災害に強いまちにするための第一歩を踏み出したい」と述べた。この日は住民から河川改修への目立った反発は見られず、府は早期の工事着手を目指す方針。ダム建設中止を巡っては、2月の府の方針決定前後は地元住民が建設を求めて反発。このため府は、河川改修工事の着手も上がった。

府は2011年度中に河川改修に必要な測量や、用地買収に向けた歩などを始める。橋下知事は意見交換会後、「事務局の懸命の調整で

橋下知事は「(建設中止で) 混乱を与え、おわびする」と陳謝。「河川改修に早期に着手し、水害に強いまちをつくりたい」と理解を求めた。府側は、80年に一度の大雨(時間雨量65mm)に対応する河川改修に付け替え道路や管理道路の整備▽ダム建設予定地での森づくり▽着工していたダム予定地の防災対策――などの代替案を説明した。

住民らは中止決定に反発してきたが、「この日は『改修スケジュールを明確に示し